研究活動報告

第82回日本公衆衛生学会総会

2023年10月31日（火）～11月２日（木）の３日間，つくば国際会議場で，第82回日本公衆衛生学会総会が開催された．学会長は筑波大学 田宮菜奈子教授であり，疫学・保健医療情報から感染症，国際保健など，多くの分野にまたがる1,438の一般演題やシンポジウム，講演などが行われた．また，２日目の最後には，その日のために研鑽を積んだ学会員も参加して，ベートーベン交響曲第九番の特別演奏会も行われた．

筆者はこの学会は初参加であったが，「原死因・複合死因からみた日本における死因簡単分類－ICD-11適用に向けて」と題する示説報告を行った．隣には高度認知症患者の死因に関する報告もあり，老衰死亡に関する議論も行われ，疾病・死亡に関わる多くの研究者と，有意義な研究交流を行うことができた．（林　玲子　記）

NCTS分野横断的二日間ワークショップ：人口ダイナミクスと関連トピックス

NCTS 分野横断的二日間ワークショップ：人口ダイナミクスと関連トピックス（2023 NCTS Interdisciplinary Two-Day Workshop: Population Dynamics and Related Topics）は，2023年11月13日から14日まで國立台湾大学で開催された，人口動態の数理モデリングと関連した応用数学に関する国際学術集会である．研究集会のタイトルにあるように，人口動態に関する研究が中心であるが，COVID-19などの影響もあり感染症の数理ややそれに関連した数学の話も多かった．数学者が殆どであったが，中には数学とは無縁の分子生物学者も講演しており，まさに学際的な様相を呈していた．著者は多地域レスリー行列モデルを用いて2020年の国勢調査のデータから，日本国内と国際移動が与える人口増加率への影響を数理的面からの分析結果を報告した．台湾は半導体景気が続いており，自然科学分野における学術会議などが活発に行われている印象を受けた．（大泉　嶺　記）

国連 ESCAP 第７回アジア太平洋人口会議

国連アジア太平洋人口会議は，1963年に第１回がインド・ニューデリーで開催されて以降，ほぼ10年ごとに第２回が日本・東京（1972年），第３回がスリランカ・コロンボ（1982年），第４回がインドネシア・バリ（1992年）で開催されてきた．第５回（2002年）以降はタイ・バンコク国連 ESCAP（アジア太平洋経済社会委員会）会議場で開催されており，筆者は前回の第６回（2013年）に続き，2023年11月15日（水）から17日（金）にかけて開催された第７回会議に参加した．

前回までは，事前の準備会議と本会議がそれぞれバンコクにて対面で行われたが，今回の事前会合は，オンライン会議方式が浸透し，CSO（市民社会組織）を中心としたステークホールダー会議と称される，民間関係者の会議が４回程度頻繁に行われた．本会議は各国代表団，国際機関や CSO のステートメントが行われ，最初のスピーカーは日本の上川陽子外務大臣（ビデオメッセージ）であった．その後，a.人口変動と持続可能な開発および気候変動，b.性と生殖に関する健康を含む健康と生